

表－1 学会活動における課題

前期（第3次）中期計画の骨子	継続的な課題・新たな課題
学会活動の充実	（会誌編集委員会）会誌への投稿が少ない，査読期間の短縮 （普及・連携委員会）地域活動への参加者の増加，現場ニーズの研究活動への反映 （国際交流委員会）会員の国際交流の促進 （情報サービス委員会）ウェブサイトの活用促進 （地域研究会）活動経費の維持・確保
幹事会活動の強化充実	<ul style="list-style-type: none"> ・理事－幹事担当制の定着と活動の強化 ・<u>気候変動適応策，大規模災害への対応，防災・減災事業と自然環境保全の両立など，新たな課題への取り組み</u>
会員サービスの充実，会員増を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・会員数の減少，会員サービス（メリット）の強化 ・<u>学会賞の創設</u> ・<u>他学会との学会誌の相互閲覧サービス</u> ・<u>研究発表実績に対する社会的評価の向上</u>
事務局運営の経済的な自立	<ul style="list-style-type: none"> ・財政の安定化・健全化，事務局人材の確保
応用生態工学に関するテキストの刊行	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの継続的な発刊
工学分野，生態学分野における「応用生態工学」的な視座の浸透	<ul style="list-style-type: none"> ・技術援助の継続 ・<u>気候変動適応策，大規模災害への対応，防災・減災事業と自然環境保全の両立など，新たな課題への取り組み</u>
応用生態工学会の社会および学界における認知度を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・学会認知度の把握と向上（広報） ・<u>気候変動適応策，大規模災害への対応，防災・減災事業と自然環境保全の両立など，新たな課題への取り組み</u> ・<u>会誌での特集号の増加（気候変動適応策，大規模災害など，社会的関心の高いテーマ）</u> ・<u>国際会議でのセッションの実施</u>

備考：1. 下線付きの課題は、「新たな課題」を示す。

2. 「継続的な課題」は「第3次中期計画の事後評価」（2014年9月）から抽出した。また、「新たな課題」は将来構想委員会での議論に基づく。